普及センターだより

くりはら

宮城県栗原農業改良普及センター

第 118 号

普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

〒987-2251 栗原市築館藤木 5-1
TEL 0228-22-9404（地域農業班）
0228-22-9437（先進技術班）
FAX 0228-22-5795、6144
E-mail khnokai@pref.miyagi.jp
URL http://www.pref.miyagi.jp/kh-nokai/

出荷ピークを迎えているいちご
（金成地区）

農政の転換期，儲かる栗原農業を実現しよう

新年明けまして　おめでとうございます。

昨年末の TPP 協議開始の閣議決定は，大変気がかりです。この機会に担い手や集落営農にとって必要な対策とは何か？日本の食と農を守り，農林水産業の競争力を強化するにはどんな国内対策が必要か？ 仲間と語り合う機会としたいものです。

昨年の米価下落や新年度の転作の強化は，米に特化してきた地域農業の構造を，否応なしに米以外の畜産・園芸へと転換を求めています。

また，同じ米でも売れる米づくり，「ひとめぼれ」１本やりから実需者の求める「ササニシキ」や，業務用に「まなむすめ」の作付けも検討したいところです。

既に機械の共同化や転作の団地化が実施済みなら，稲 WCS や飼料用稲への直播等の新技術も導入し，一層のコスト削減に結びつけていただきたい。

今年，戸別所得補償制度が本格実施されます。

農業を取り巻く状況は日々刻々と変わって，米や畑作物の所得補償制度に水田活用（転作）や農地・水環境保全向上対策等，制度を知らなかったでは済まされません。

地域農業の構造改革を達成するには，制度を利用しもらえる交付金はいただき，再生産できる体制作りに活かしたい。そのためできるだけ多くの方に，制度を理解し活用していただきたい。

農政の転換期，検討すべき課題は多くあります。

我が家で家族と，集落で仲間と，地域で担い手や関係機関と，農商工連携を視野に２次・３次産業の方々とも，何が課題で何処を強化すべきか，制度や体制について意見交換，情報や目標を共有し対応していきたいものです。

普及センターでは，これからも栗原地域の農業・農村の活性化に向け，国や県の施策を活用しつつ，若者があこがれる魅力ある産業づくり，儲かる栗原農業の実現に向けた支援活動を，栗原市や JA 栗っこ等関係機関と連携しながら展開してまいりますのでご理解とご協力をお願いします。

栗原農業改良普及センター
農業普及指導専門監　佐　藤　　実

速報　第2期 みやぎ食と農の県民条例基本計画を策定中

宮城県は，農業・農村の振興方針として平成１２年にみやぎ食と農の県民条例を定め，掲げた目標を具体化するため，平成１３年に第１期みやぎ食と農の県民条例基本計画（Ｈ１３～Ｈ２２）を策定して，各種施策を実施してきました。

計画最終年度の今年度，県では第２期計画（Ｈ２３～Ｈ３２）を策定中ですが，今回はこの中からポイントを３つ紹介します。

① 若者のハートをつかむ魅力ある農業へ

基本計画で描く農業の将来像は，「農業を若者があこがれる魅力ある産業に！」です。

培われた農業の技や営々と築かれてきた農村地域を，次の若い世代へしっかり継承させるため，若者がやりがいを感じ魅力を感じるビジネスへ農業を変えていきます。

② ４つの基本方針と１４の施策

基本計画を木に例えると，幹にあたる基本方針が４つ（食の安全安心，マーケットイン型農業，農業農村の多面的機能，農村経営の活性化），枝にあたる施策が１４（ＧＡＰ，地産地消，アグリビジネス，集落営農，農地活用，担い手確保，水田農業等）あります。

各種施策を通してたくさんの葉を茂らせ花を咲かせ，成果につなげていきます。

③ 栗原圏域計画のコンセプトは，ズバリ「儲かる農業」

基本計画には，県内７圏域の計画も掲載されます。栗原圏域計画の重点推進項目には，担い手の育成や環境保全米の拡大など，５つの項目を掲げていますが，「儲かる栗原農業の実現」を１番目に置き，これを合言葉に栗原の農業を振興していきます。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

次年度からスタートする第２期みやぎ食と農の県民条例基本計画は，今後の具体的な各種事業や施策を生み出す母体となる計画です。

これからも関連情報をお知らせしていきます。

技術情報

育苗管理を見直し，ばか苗の発生を防ぎましょう

管内でも，ばか苗病の発生面積が拡大している様子がうかがえます。

「同じように温湯消毒を行ったにもかかわらず，ばか苗が発生したところとそうでないところがある。」と，よく耳にします。

古川農業試験場の調査によると，育苗管理方法の差で発生が多くなる傾向があるようです。

①処理後の保管	種子水分が高い
②浸　　種	浸種温度が高い
③催　　芽	催芽の温度が低く催芽が不十分
④出　　芽	無加温出芽で発生率が高い

作業を振り返って，心当たりはありませんか

この対処方法として

①温湯消毒後は十分に乾燥させて，保管する
②浸種は，15℃以上にならないように注意する
③催芽は，30℃（±2℃）で十分に催芽させる
④出芽は，加温出芽で発生が少ないが，無加温出芽の場合は，被覆資材により低温にならないようにする

このような点に注意しながら作業を行い，発生を最小限に留めましょう。

４,５月どり寒玉系キャベツの安定生産に向けて

近年，食の外食・中食化が進み，加工・業務用野菜の需要が増加する中，キャベツは，全国で生産される量の約半分が加工・業務用となっていることから，加工業務用のキャベツ栽培に関するさまざまな試験研究が進められています。

４，５月どりの寒玉キャベツは，品種・生理の特性によって生産が不安定となることから，市場での需要はあるものの産地としての取り組みは少ない状況です。そこで，県農業・園芸総合研究所では収穫予定にあわせた播種日とそれに適する品種・気候条件の影響について，現在，現地試験を行っています。４月どり用としては「晩生で抽だいしにくい」品種を昨年８月下旬に播種，９月中下旬に定植。また５月どり用としては「春先の結球が早い」品種を９月上中旬に播種，１０月上中旬に定植しました。試験の結果は今春に出ますが，この試験がうまくいけば，栗原地域で継続的なキャベツの出荷が可能となるなど今後の有利販売にも期待が持たれます。

農業用廃プラスチック類は適正に処理しましょう!!

水稲直播栽培に取り組んでみませんか？

直播栽培は，春作業の労力削減，労働ピークの分散，作期の分散といったメリットがあり，何より一人でも作業できるのが魅力です。

方法は，大きく湛水直播と乾田直播に分けられ，湛水直播の中で近年面積の伸びが大きいのが鉄コーティング直播です。

県内では，ここ数年でメーカーによる技術開発が進み，ラジコンヘリによる散播と専用機による条播技術が確立されつつあります。管内でも，ＷＣＳを中心に面積が拡大しています。

鉄コーティング種子

鉄コーティング直播のメリットは，

①カルパーコーティングと比べて資材費が安価

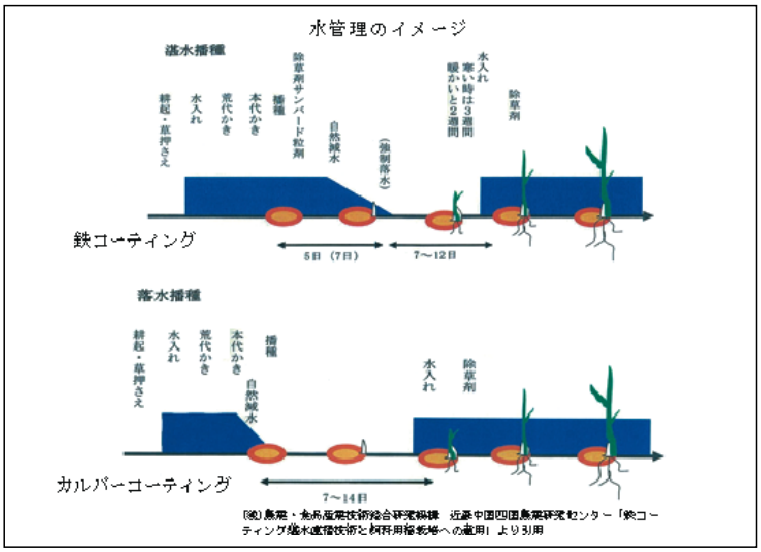
②表面播種が基本なので散播も可能

③播種時間が短い

④播種後落水せず初期除草剤を散布できるため，その後の体系が組みやすい

⑤長期間コーティング種子を保管できるといった点があげられます。

今年度普及センターでは，鶯沢地区農業振興協議会の協力の下，ラジコンヘリによる散播と専用機による条播について現地試験を行いました。



６月４日のほ場（左から鉄条播，ラジヘリ散播，カルパー条播）

７月 21 日のほ場（左から鉄条播，ラジヘリ散播，カルパー条播）

９月９日のほ場（左から鉄条播，ラジヘリ散播，カルパー条播）

散播では，播種量や播種作業時の強風が影響し，坪当たり種子密度が高くなったことや，ほ場全体で播種密度が不均一になったことから，有効茎歩合が小さくなりました。

そのため，１株当たりの栄養状態が悪く，穂数および籾数が少なく，坪刈り収量は 10a 当たり 306kg と低くなり，玄米整粒歩合も 79％と低くなりました。一方条播では，初期生育から安定し，適正な茎数で推移したため，稲体の栄養状態も良好で，10a 当たり坪刈り収量は 471kg となり，玄米整粒歩合は 82％となりました。

〔参考／コスト比較〕
（単位：円／10a）

	鉄	カルパー
コーティング資材費	700	3,142
コーティグ費用	1,000	3,140
播　種　料　金	9,000	9,000
合　　計	10,700	15,282

普及センターでは，安定栽培に向けた指標をつくるため，来年度も継続して現地試験栽培を行う予定です。

普及情報

栗原食材生産現場見学会を開催

11月10日(水)，栗原地域で生産する食材を食関連事業者の方々に紹介することにより，生産者と実需者の交流を深め，利用促進を図るために「栗原食材生産現場見学会」を開催しました。

当日は，仙台市内のホテルのシェフ，食品卸，加工業者等，10 名が参加し，活発な情報交換が行われました。

見学した生産現場は，なめこ，ベビーリーフ，ねぎ，りんごの栽培団体や農家で，それぞれ生産の特徴をＰＲし，加工品等への今後の取り組み，取引の方法について説明がありました。当日，それぞれ試食品やサンプル等の提供が行われ好評でした。

昼食には，農家レストランでの地場産食材を使った地域料理のバイキングで，シェフらもレシピを聞くなど，活発に情報交換が行われました。

特に，なめこの軸の商品化や利用について関心が強く，生産者も商品化に向けた加工品の試作をしていくことになりました。

参加者からは，食材の活用について検討を行いマッチングを今後もお願いしたいとの声が多く，普及センターでは，さらに情報提供と地域食材の紹介の機会を増やしていきたいと考えています。

【カラーレタスほ場見学】

栗原の農商工連携をテーマに 宮城県指導農業士会交換交流会を開催

宮城県指導農業士会（会長　大内喜一郎）主催による宮城県指導農業士会交換交流会が，平成22年11月10日(水)～11 日(木)に栗原地域で開催され，指導農業士13 名，県関係者 4 名の計 17 名が参加しました。

農商工連携をテーマに①「くりはら直売館よさこい」　②「株式会社　愛宕産土農場」　③「有限会社　川口グリーンセンター」　④「指導農業士　白鳥一彦氏」を視察しました。

「くりはら直売館よさこい」では，地域農業の 6 次産業化と一迫商業高等学校との連携による新商品の開発，地域の人材育成を図っていることなどの紹介，「(株) 愛宕産土農場」では，菓子製造業の(有)パレットと連携し，地域特産物である「ずんだ」の開発経過などが説明されました。

「(有)川口グリーンセンター」は，指導農業士の白鳥正文氏が代表取締役を務めており，水稲受託経営，スプレーぎくの栽培，農産物直売所の運営などの多角経営に取り組んでいること，さらにパンづくりの専門家と組んで米粉ビジネスの拡大に着手していることなどをお話しいただきました。

県内各地から集まった指導農業士の方々は，栗原市において積極的に農商工連携が進められていることを初めて知り，高い関心を抱いていたようです。

【県内の農業牽引者が集まって】

みやぎオリジナルりんご「サワールージュ」の 生産拡大・販路開拓を目指して

去る平成22年11月1日，栗原合同庁舎を会場に，みやぎオリジナルりんご「サワールージュ」学習会を開催したところ，管内のりんご生産者及び関係機関３０名ほどが集まりました。

本品種は，宮城県農業･園芸総合研究所がりんごでは初めて種苗登録した品種で，近年，地産地消の意識の高い実需者や家庭での料理を念頭に置いた消費者の声に応えるべく開発されました。

酸味が強いという特徴から，生食以外での新たな販売チャネルを検討するため，学習会ではホテルメトロポリタン仙台の渡邊副総料理長を講師に迎え，副総料理長自らが試作した「サワールージュ」の料理に舌鼓を打ちながら，「料理業界が期待するみやぎの果樹」と題し，講演をいただきました。

学習会後半は栽培するに当たって品種の特性，栽培上の留意点等を育成者である宮城県農業･園芸総合研究所より説明いただきました。

普及センターからは，「サワールージュ」を含め，様々な顧客のニーズに対応できる産地，特徴のある産地づくりをしていくことを提案し，栽培面，販売面を全面的にバックアップしながら，特徴あるりんご産地づくりの支援をしていく予定です。

【目にも鮮やかなサワールージュの料理】

普及センターホームページをのぞいてみませんか

栗原農業改良普及センターでは，ホームページを開設しています。技術情報として，稲作の生育情報を掲載した「栗原の稲作通信」や「果樹生育情報」などのほか，「管内の話題」として地域情報を掲載しています。アドレスは　http://www.pref.miyagi.jp/kh-nokai/ 是非一度御覧ください。

また，県内各地の普及センター管内における地域情報は，「宮城の農業普及現場情報」(アドレス　http://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu)　で御覧いただくことができます。また宮城県内の各農業改良普及センターホームページへのアクセスもこちらからできますので，是非御利用ください。

農薬は使用方法をラベルでよく確認し，正しく使いましょう

＜プロジェクト課題の紹介＞

栗駒地区で耕畜連携循環型農業を推進中

【栗駒有機肥料センター】

栗原市栗駒地区は畜産農家が多く，管内で一番大きい有機センターが整備されていますが，施設稼働率が伸び悩み，堆肥（くりこまゆうゆう）の利用もあまり進んでいません。

そこで栗原普及センターでは，施設の有効活用と堆肥の利用促進，及び生産された農産物のブランド化を目指して，２カ年のプロジェクト事業に取り組んでいます。

初年度の平成２２年は，市やＪＡと連携しながら関係農家を巡回し，有機センターの利用や土づくりを呼びかけ，また，「くりこまゆうゆう」の活用研修会（６月），エコファーマー及び特別栽培米に関する懇談会(11 月)の開催，堆肥散布展示ほ（２ヵ所）の設置と結果説明･展示ほ新米の試食（11 月）など，堆肥の効果や循環型農業の意義について考える機会を持ちました。

プロジェクト事業２年目となる平成２３年は，特に「くりこまゆうゆう」を活用した農産物のブランド創出に力を入れた活動を行ない，栗駒地区における耕畜連携循環型農業の取り組みに弾みがつくよう，支援を行なっていきます。

【懇談会話題提供の様子】

農事組合法人 三田鳥営農組合 設立

平成２２年１１月７日，「農事組合法人三田鳥営農組合設立総会」が開催され，構成員関係者あわせて４０名以上が出席した盛大な式典となりました。

これまで関係機関一体となって法人化に向けた支援を進めてきたこともあり，来賓からは「ぐるみ型集落営農組織の先導的事例として頑張って欲しい」と，祝辞が送られるとともに，代表理事に選任された柴山均氏からは，「組合員の共同の利益を増進することに全力を尽くす」と決意表明がありました。

この法人の第１期の活動は H22.11～H23.3 までとなり，大豆の乾燥調製作業のみとなりますが，第２期となる平成２３年４月からは水稲・大豆生産にも取り組む計画であり，戸別所得補償制度にも法人としての参加を予定しています。

設立総会開催にこぎ着けたことは普及センターにとっても大変喜ばしいことであり，今日を新たな出発点として，今後も関係機関と連携を図りながら，当法人が地域の中核として発展するよう育成，支援していきます。

【盛大に開催された設立総会】

【あいさつする
柴山代表理事】

地域に支えられる女性起業者の経営確立

瀬峰地区の農産物直売所「菜っちゃんハウス」を中心に管内常設直売所を対象に地産地消に向けた，農産物や加工品の生産支援を行ってきました。

菜っちゃんハウスでは，カットした野菜の袋詰めの販売や，加工品の品数も増えるなど売り上げも順調に伸び販売品目も増えてきています。

今後，地域に根ざした施設として他のモデルとなるよう組織の継承についても検討を行っていきます。

さらに今後，加工品の技術研鑽や直売所の地域での役割などをキャリアアップ講座を開催（２月予定）する予定です。

また今年度は，若柳地区に来年６月に開設予定の農産物直売所「くりでん」の組織づくりの支援と施設内にできる４つの加工施設の設置・運営と食堂の開業に向けた支援を行ってきました。

商品の試作やメニューの検討など今後もさらに支援を行い，地域に根ざした地産地消の拠点として位置づけていきます。

【にぎわいを見せる直売所】

トピックス　受賞おめでとうございます！

くりはらのりんご祭り

平成２２年１１月２５日，栗原合同庁舎１階ロビーにて，栗原市果樹連絡協議会主催による「くりはらのりんご祭り」が開催され，次の方々が受賞されました。

賞　　名	受賞者氏名	品種
栗原市果樹連絡協議会 最優秀賞 宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所長賞 栗原市長賞	鈴木　義嗣 氏 （金成小堤）	ふじ
栗原市果樹連絡協議会 優秀賞 栗っこ農業協同組合長賞	伊藤　優幸 氏 （金成末野）	王林
栗原市果樹連絡協議会 優秀賞 栗原農業共済組合長賞	田中　　学 氏 （金成小堤）	ふじ
栗原市果樹連絡協議会 優良賞	千葉　永喜 氏 （栗駒）	ふじ
栗原市果樹連絡協議会 優良賞	千葉　六郎 氏 （金成末野）	ふじ
栗原市果樹連絡協議会 優良賞	佐藤　光夫 氏 （高清水）	ふじ

みやぎまるごとフェスティバル２０１０

平成２２年１０月１６・１７日に開催された「みやぎまるごとフェスティバル」の農林産物・花き品評会において次の方々が受賞されました。

部門･作物	賞　　名	受賞者氏名
水稲・ うるち米	県知事賞２等（４席） みやぎ原種苗センター理事長賞	伊藤　晋哉 氏 （栗駒）

宮城県花き品評会受賞者

品目名	賞　　名	受賞者氏名
シクラメン	金　　賞（５席） 宮城県議会議長賞	千田　滋紀 氏(金成)
パンジー	銀　　賞	早坂　　清 氏(若柳)
パンジー	銀　　賞	高橋　敦司 氏(若柳)
葉ボタン	銀　　賞	千田　滋紀 氏(金成)

平成22年度 全国優良経営体表彰

農林水産経営局長賞受賞
白　鳥　一　彦 さん

お知らせ

日本酒にまつわる講演会開催について

神事，お祝いごとなどハレの日に欠かせないのがお酒，日本酒です。年々酒類の消費が後退し，それと比例して日本酒の消費も後退傾向にあります。日本酒は，米を原料にした日本独特のアルコールであり，酒文化を後代に引き継ぐという意味でも，生活に密着した酒類です。

また，栗原には，美味しいお酒を醸す酒蔵があり栗原を語るにも欠かせません。

普及センターでは，日本酒についての知識を広く知らしめ，新たなファンづくりを目的に，講演会を予定しております。

内容は，吟醸酒や本醸造などの種類，ラベルに記載してある言葉の意味などを説明してもらう予定にしております。

また，日本酒に合う料理なども紹介する予定です。

現在，平成２３年２月下旬から３月上旬の開催に向け準備を進めています。

詳細が決まりましたら，改めてご案内しますので，ご期待ください。

お知らせ

県イチゴ栽培研修会開催について

宮城県農産園芸環境課主催の標記研修会が，２月下旬に農業・園芸総合研究所（名取市）を会場に開催される予定です。

内容は，促成いちごにおける株元温度制御技術の効果，熱処理による苗の病害虫防除など，近年開発された新技術等について紹介されることとなっています。

詳しい日程や申込方法等は決定次第お知らせいたしますので，いちご栽培に現在取り組む，または今後計画されている皆様はぜひご参加ください。

農薬散布作業中，作業中の事故に注意しましょう

この「普及センターだより　くりはら　第118号」は、1,000部印刷し、1部あたりの単価は59円です。